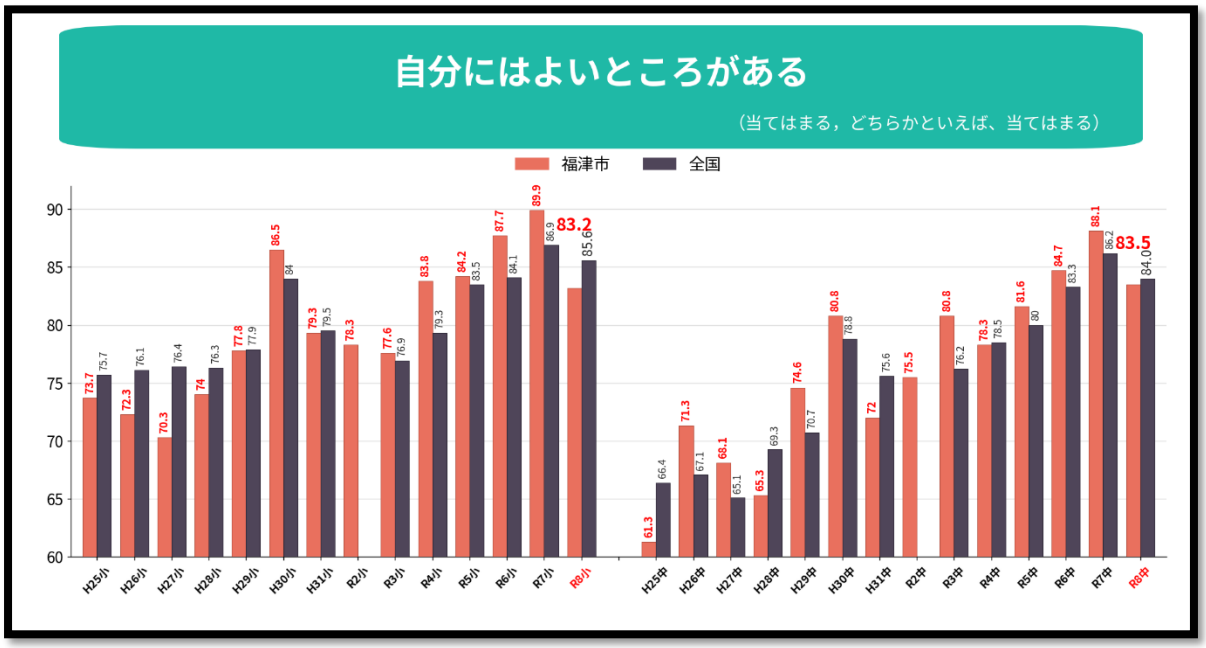
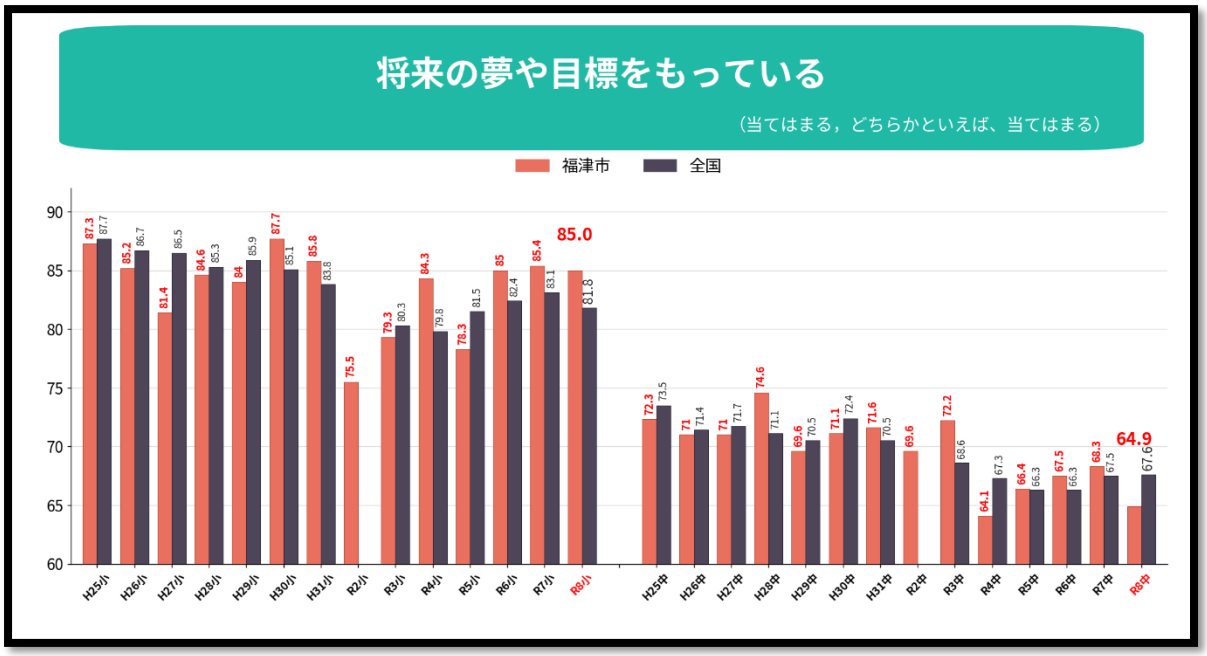
全国学力・学習状況調査における子どもたちの学習状況と成長

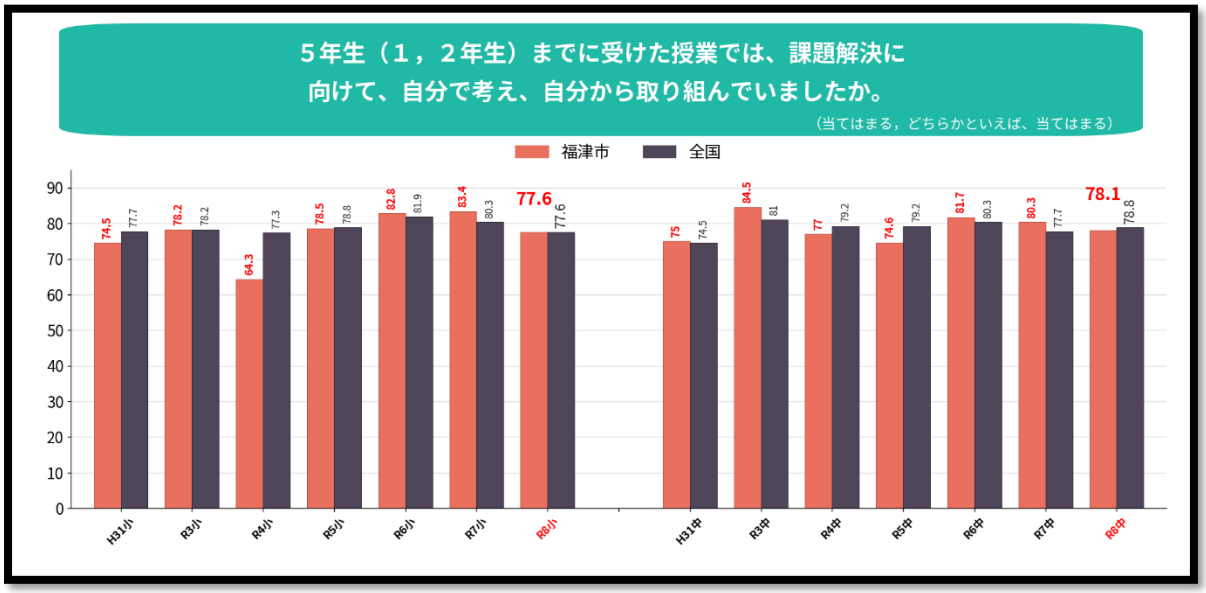
令和８年４月に小学６年生、中学３年生の全児童・生徒を対象に行われました、全国学力・学習状況調査の「児童・生徒質問紙」の結果から見えてくる福津市の子どもの学習状況の結果です。

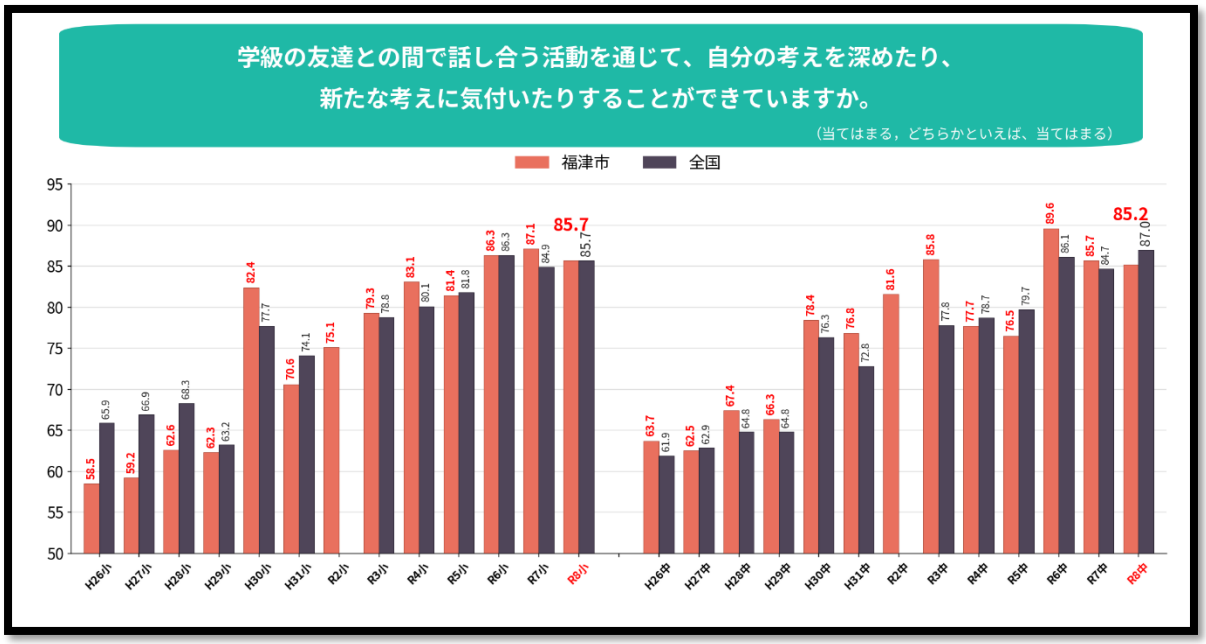
この結果のみですべての子どもの学習状況や成長を把握することはできませんが、経年比較により、学習状況を踏まえて教育活動の検証・改善に生かしたいと考えています。

◆「認め合い、鍛え合い、創造する子ども」







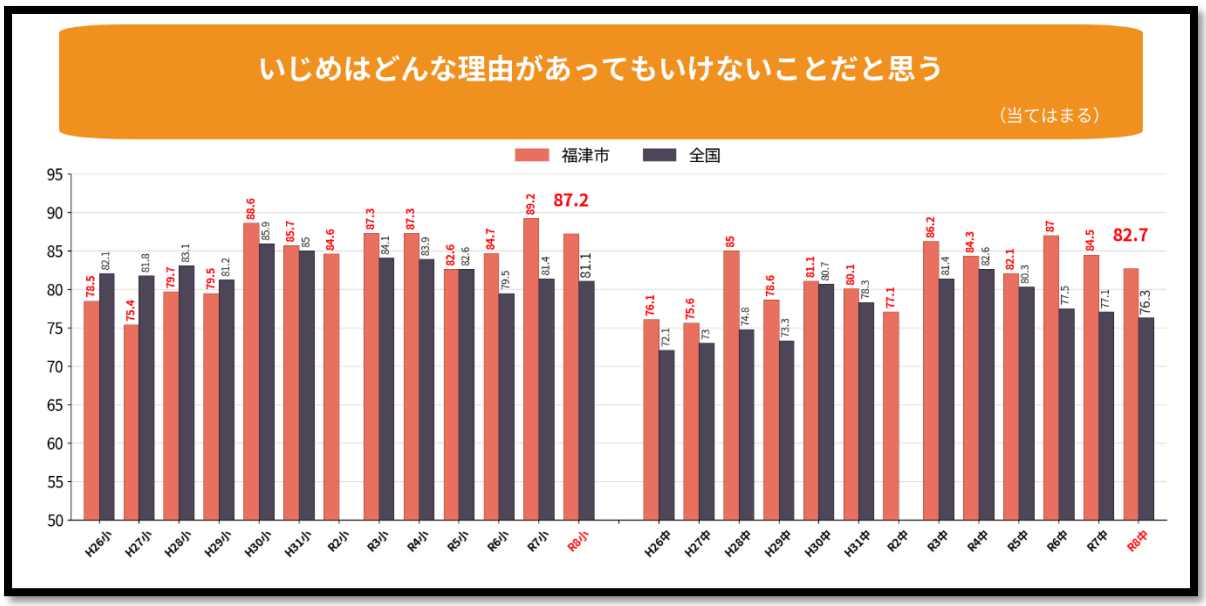


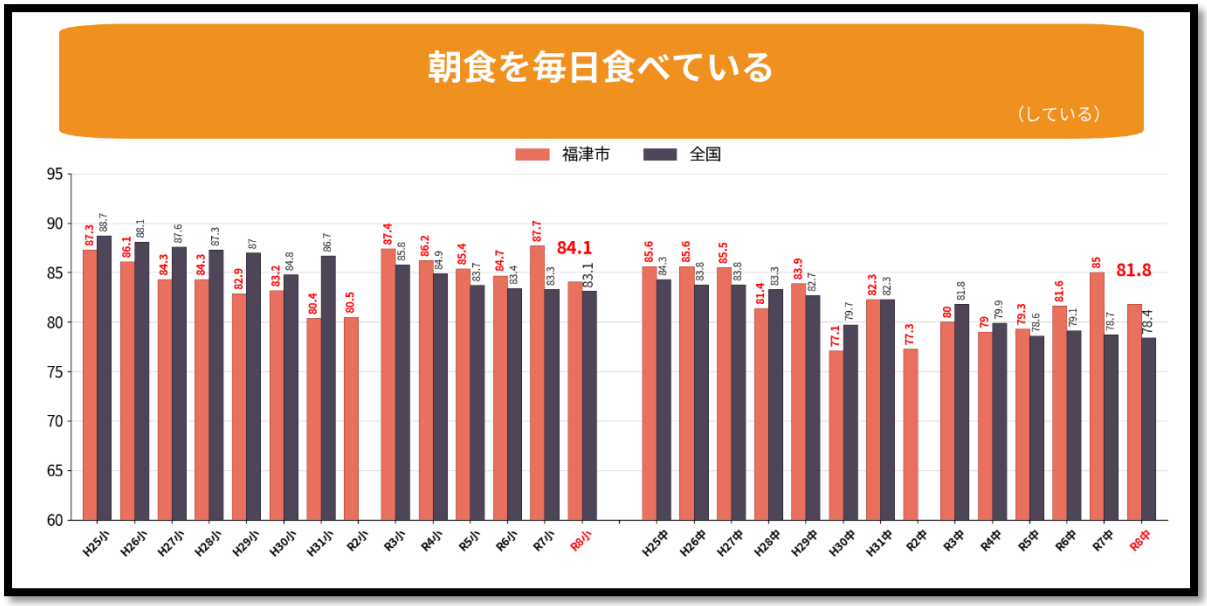
□　「自分にはよいところがある」、「夢や目標をもっている」の項目は、小・中学校ともに全国とほぼ同じ結果となっています。「自分にはよいところがある」は、小・中学校ともに昨年度より数値が下がっていますが、８割以上の子どもが肯定的に回答しています。「夢や目標をもっている」は、小学校は全国より高い割合を維持していますが、中学校は昨年度より数値が下がり、全国をわずかに下回っています。今後も、子どもたちが自分のよさを実感し、自分の目指す夢に向かって自己実現できるよう発達支持的生徒指導の充実や、小中９年間を通したキャリア教育の充実等を図っていきます。

□　「５年生（１・２年生）までに受けた授業では、課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる」の項目では、小・中学校ともに全国平均とほぼ同じ結果となっています。昨年度と比べると、特に小学校で数値が下がっており、主体的な学びの充実が引き続き課題です。また、「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考えに気付いたりすることができている」の項目においても、小・中学校ともに全国平均とほぼ同じ結果となっており、８割を超える子どもが協働的な学びのよさを実感しています。各学校で取り組んでいる主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を継続しつつ、個別最適な学びの充実に力を入れ、学

習者主体の授業づくりに努めていきます。

◆規範意識や社会性を身に付けた子ども

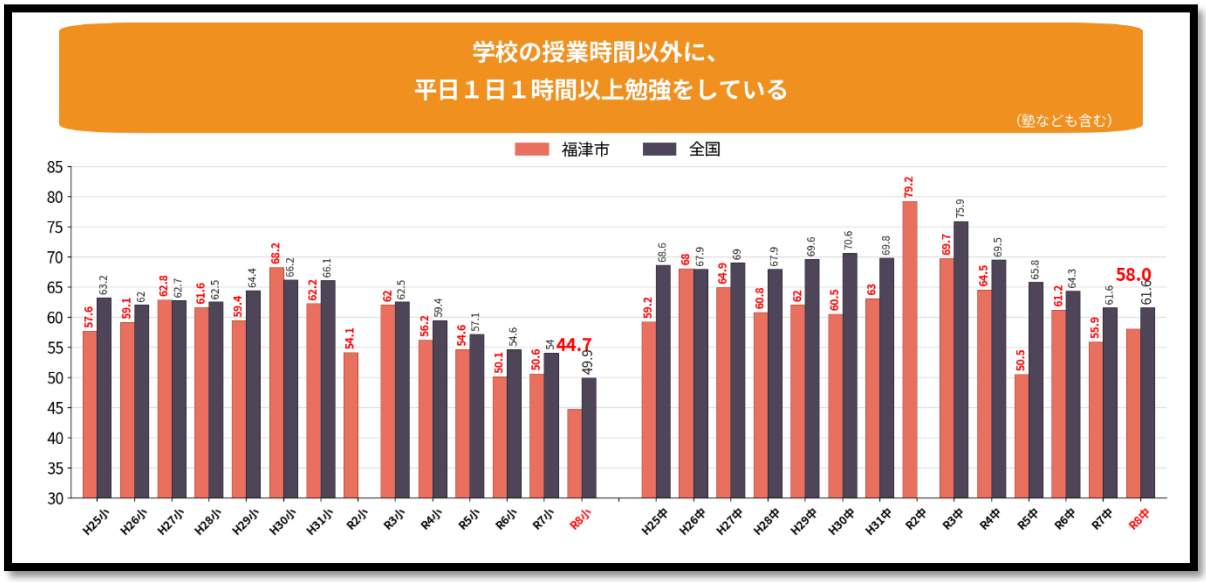




□　「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う」の項目について、小・中学校ともに全国平均をやや上回っており、「当てはまる」と回答した割合は小学校で８７．２%、中学校で８２．７%となっています。ほとんどの子どもが「いじめはいけない」と判断していることから、高い規範意識がうかがえます。いじめはどんな理由があっても絶対に許されない行為であるという強い認識を全ての子どもがもてるよう、人権教育、道徳教育のより一層の充実を図りながら、全教育活動を通じた指導を継続して行っていきます。同時に、いじめ未然防止に向けた様々な取組も継続して行っていきます。

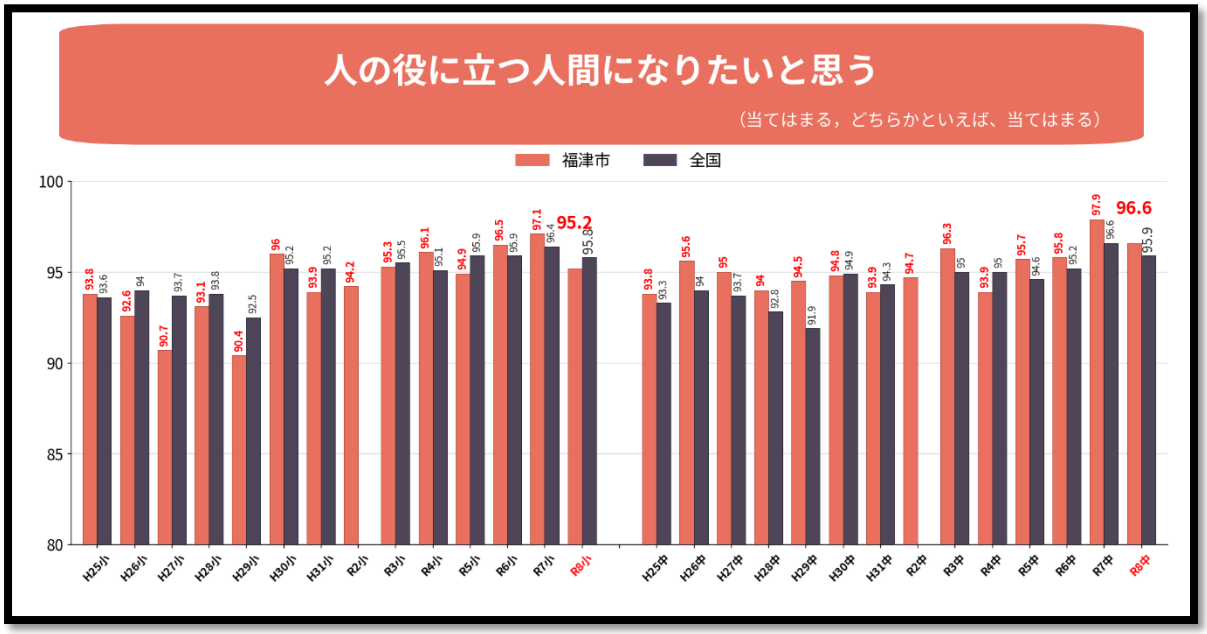
□　「毎日朝食を食べている」の項目は、小・中学校ともに全国平均とほぼ同じ結果となっています。中学校は全国を上回る状況が続いていますが、小・中学校ともに昨年度と比べると数値が下がっています。子どもたちの心身の健やかな成長のために、「早寝早起き朝ごはん」をはじめとした規則正しい生活習慣を今後も継続して身に付けさせていくとともに、各学校において食育の推進

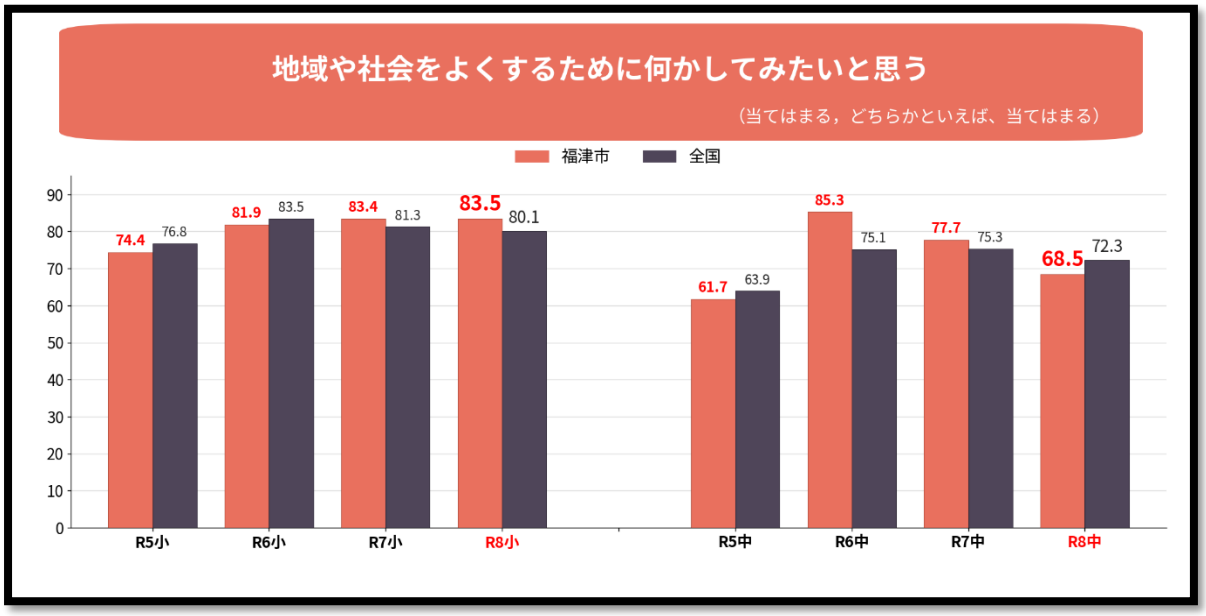
を今後も図っていきます。



□　規則正しい学習習慣について、「平日１日あたりの家庭学習の時間」の項目では、「１時間以上学習している」割合が、小学校は全国平均を下回り、中学校は全国平均をやや下回っています。中学校は昨年度より増加しましたが、小学校は昨年度より減少し、平成２５年度以降で最も低い数値となっています。子どもたちがやらされる家庭学習ではなく、意味を感じながら主体的に取り組む家庭学習にするために、自分の夢とつなげるキャリア教育の推進や、ICT 機器を活用し自己選択しながら自分の課題を解決するような個に応じた家庭学習等も取り入れていき、家庭・地域と協働した取り組みの充実を図っていきます。

◆福津のよさに学び、貢献する子ども





□　「人の役に立つ人間になりたいと思う」の項目では、小・中学校ともに全国平均とほぼ同じ結果となっており、小・中学校ともに９５％以上の子どもが肯定的に回答しています。

　また、「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う」については、小学校は全国平均とほぼ同じとなっており、昨年度と同程度の高い水準を維持しています。一方、中学校は全国平均をやや下回り、昨年度より数値が下がっています。地域コーディネーターを中心とした地域の大人との関わりの中で学ぶ「ふるさと学習」の充実が、小学生の貢献意識の高まりにつながっていると考えます。今後は、各中学校におけるボランティア活動など、中学生が他者貢献や地域貢献を実感できる機会の充実を図るとともに、小中９年間の連続したコミュニティ・スクールの取組を更に深化させ、地域のよさを知り、地域に貢献する喜びや地域の一員として自覚をもって行動する子どもの育成に更に取り組んでいきます。